



2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月7日
東

上場会社名 ミヨシ油脂株式会社 上場取引所
 コード番号 4404 URL <http://www.miyoshi-yushi.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長兼CEO(氏名) 三木 逸郎
 問合せ先責任者(役職名) 経理財務部長(氏名) 小河 尚典 (TEL) 03-3603-1149
 四半期報告書提出予定日 2022年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年12月期第3四半期 | 38,454 | 11.4 | △1,261 | — | △1,079 | — | △754 | — |
| 2021年12月期第3四半期 | 34,527 | 8.5 | 696 | △9.8 | 905 | △8.4 | 643 | △5.2 |

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 △681百万円(—%) 2021年12月期第3四半期 1,638百万円(—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|----------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年12月期第3四半期 | △73.93 | — |
| 2021年12月期第3四半期 | 63.00 | — |

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年12月期第3四半期に係る各金額については、当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年12月期第3四半期 | 55,611 | 24,192 | 43.4 |
| 2021年12月期 | 52,623 | 25,291 | 48.0 |

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 24,154百万円 2021年12月期 25,259百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年12月期 | — | — | — | 40.00 | 40.00 |
| 2022年12月期 | — | — | — | — | — |
| 2022年12月期(予想) | — | — | — | 30.00 | 30.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|---|------|---|------|---|-----------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 52,000 | — | △850 | — | △630 | — | △410 | — | △40.17 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となりますので、売上高の対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2022年12月期3Q | 10,306,895株 | 2021年12月期 | 10,306,895株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年12月期3Q | 101,204株 | 2021年12月期 | 101,204株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2022年12月期3Q | 10,205,691株 | 2021年12月期3Q | 10,220,629株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (会計上の見積りの変更) | 8 |
| (セグメント情報等) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年1月1日～2022年9月30日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響からの持ち直しの動きが見られ、経済・社会活動の正常化が進みましたが、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う資源価格・エネルギー価格の高騰や急速な円安の進行等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当油脂加工業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が継続するなか、バイオ燃料向けの需要拡大を背景とした油脂原料の需給ひっ迫や、各種原材料価格の高騰により非常に厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなかで当社グループは、市場ニーズに合わせた新たな製品の開発や用途開拓を推進するとともに、展示会への出展やWEBサイト等のデジタル施策を取り入れた販売促進活動を積極的に展開する一方、油脂原料価格の高騰に伴う販売価格の改定を推し進め収益の確保に努めました。

この結果、売上高は38,454百万円(前年同期比11.4%増)となりましたが、油脂原料価格が一段と高騰した影響により、営業損失は1,261百万円(前年同期は営業利益696百万円)、経常損失は1,079百万円(前年同期は経常利益905百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は754百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益643百万円)となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

① 食品事業

食品事業につきましては、大口取引先である製パン業界は巣ごもり需要等が下支えとなり回復傾向で推移しました。一方、外食産業および土産菓子業界は回復の兆しは見られたものの依然として低調であったことに加え、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まり等により、主力製品であるマーガリン・ショートニングが伸長せず、苦戦を強いられました。また、油脂原料価格が軒並み高騰し記録的な高値で推移したことや、急速な円安の進行等により原材料調達コストが大幅に増加した影響を受け、非常に厳しい環境で推移しました。

このような状況のなか、既存製品の販売価格改定を推し進めるとともに、プラントベースフード等の新規市場への開拓の取り組みを強化した結果、売上高は26,022百万円(前年同期比13.4%増)となりましたが、利益面では、販売価格改定が油脂原料価格の上昇スピードに追い付かず、営業損失は1,389百万円(前年同期は営業利益207百万円)となりました。

② 油化事業

工業用油脂製品につきましては、原料価格高騰の影響を大きく受けるなか、グリセリンは、化粧品、家電、塗料等の需要が堅調で、高付加価値製品の販売が好調に推移しましたが、脂肪酸は、原料の需給ひっ迫の影響を受け低調に推移しました。

界面活性剤関連製品につきましては、高付加価値シャンプーやクレンジング製品向け原料基剤が好調に推移したものの、紙・パルプ分野の家庭紙用薬剤は、マスク着用の常態化による需要の減少と原料価格の高騰により低迷しました。また、環境関連分野の飛灰用重金属処理剤は、事業系ごみの減少が継続したことに加え、主要原料の価格高騰と需給ひっ迫による影響を受け低調に推移しました。

この結果、売上高は12,145百万円(前年同期比9.7%増)となりましたが、原料価格高騰の影響を受け、営業利益は67百万円(前年同期比85.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,988百万円増の55,611百万円となりました。主な増加は原材料及び貯蔵品1,521百万円、商品及び製品1,004百万円、流動資産のその他687百万円、受取手形及び売掛金497百万円、投資その他の資産のその他437百万円、電子記録債権415百万円であり、主な減少は現金及び預金1,781百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,087百万円増の31,419百万円となりました。主な増加は借入金2,457百万円、支払手形及び買掛金2,354百万円であり、主な減少は電子記録債務438百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,099百万円減の24,192百万円となりました。主な減少は利益剰余金1,171百万円であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末の48.0%から43.4%に減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における実績及び最近の業績動向等を踏まえ、2022年8月8日に公表いたしました通期連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(2022年11月7日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 5,532 | 3,751 |
| 受取手形及び売掛金 | 12,366 | 12,863 |
| 電子記録債権 | 2,212 | 2,627 |
| 商品及び製品 | 2,580 | 3,585 |
| 仕掛品 | 620 | 1,023 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,128 | 3,649 |
| その他 | 204 | 891 |
| 貸倒引当金 | △141 | △157 |
| 流動資産合計 | 25,504 | 28,235 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 4,280 | 4,001 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 4,691 | 4,186 |
| 土地 | 6,121 | 6,378 |
| その他（純額） | 627 | 664 |
| 有形固定資産合計 | 15,721 | 15,230 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 394 | 405 |
| 無形固定資産合計 | 394 | 405 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 8,001 | 8,231 |
| 退職給付に係る資産 | 2,794 | 2,867 |
| その他 | 238 | 675 |
| 貸倒引当金 | △31 | △35 |
| 投資その他の資産合計 | 11,002 | 11,739 |
| 固定資産合計 | 27,118 | 27,375 |
| 資産合計 | 52,623 | 55,611 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 11,067 | 13,421 |
| 電子記録債務 | 916 | 477 |
| 短期借入金 | 3,925 | 5,425 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 645 | 720 |
| 未払法人税等 | 145 | 15 |
| その他の引当金 | 2 | 5 |
| その他 | 2,040 | 1,824 |
| 流動負債合計 | 18,743 | 21,890 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 4,472 | 5,355 |
| 退職給付に係る負債 | 2,446 | 2,427 |
| 役員退職慰労引当金 | 21 | 21 |
| 役員株式給付引当金 | 41 | 49 |
| その他 | 1,607 | 1,676 |
| 固定負債合計 | 8,588 | 9,528 |
| 負債合計 | 27,331 | 31,419 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 9,015 | 9,015 |
| 資本剰余金 | 5,492 | 5,492 |
| 利益剰余金 | 7,865 | 6,693 |
| 自己株式 | △147 | △147 |
| 株主資本合計 | 22,225 | 21,053 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,514 | 2,582 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 519 | 518 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,033 | 3,100 |
| 非支配株主持分 | 31 | 37 |
| 純資産合計 | 25,291 | 24,192 |
| 負債純資産合計 | 52,623 | 55,611 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 34,527 | 38,454 |
| 売上原価 | 29,041 | 34,793 |
| 売上総利益 | 5,486 | 3,661 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,790 | 4,922 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 696 | △1,261 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 1 |
| 受取配当金 | 200 | 191 |
| 持分法による投資利益 | 43 | 33 |
| その他 | 105 | 64 |
| 営業外収益合計 | 350 | 290 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 72 | 77 |
| 支払補償費 | 37 | - |
| その他 | 31 | 30 |
| 営業外費用合計 | 140 | 108 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 905 | △1,079 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 29 | 17 |
| 特別利益合計 | 29 | 17 |
| 特別損失 | | |
| 有形固定資産除却損 | 40 | 16 |
| 投資有価証券評価損 | - | 23 |
| 特別損失合計 | 40 | 39 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 893 | △1,101 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 213 | 28 |
| 法人税等調整額 | 32 | △381 |
| 法人税等合計 | 246 | △353 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 647 | △748 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 3 | 6 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | 643 | △754 |

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) |
|-------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 647 | △748 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 959 | 67 |
| 退職給付に係る調整額 | 31 | △1 |
| その他の包括利益合計 | 991 | 66 |
| 四半期包括利益 | 1,638 | △681 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,634 | △687 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 3 | 6 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、顧客への製品の販売における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から他の当事者への支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。また、有償支給取引については、従来有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。さらに、有償受給取引については、従来有償支給元への売り戻し時に売上高と売上原価を計上しておりましたが、加工代相当額のみを純額で収益として認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,643百万円減少し、売上原価は4,639百万円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ3百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は5百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社は、2022年2月24日開催の取締役会において、当社が保有する本社事務所、物流倉庫、東京工場として利用の土地および借地権を譲渡することを決議いたしました。これに伴い、当社等の移転後利用見込みのない固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ89百万円増加しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|---------|--------|--------|-----|--------|------|-----------------------|
| | 食品事業 | 油化事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 22,953 | 11,073 | 34,026 | 500 | 34,527 | — | 34,527 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 118 | 48 | 167 | 107 | 274 | △274 | — |
| 計 | 23,072 | 11,121 | 34,193 | 608 | 34,802 | △274 | 34,527 |
| セグメント利益 | 207 | 449 | 657 | 38 | 696 | — | 696 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸、原料油脂等を含んでおります。

2 セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|---------|--------|--------|-----|--------|------|-----------------------|
| | 食品事業 | 油化事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 26,022 | 12,145 | 38,168 | 286 | 38,454 | — | 38,454 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 173 | 91 | 265 | 107 | 373 | △373 | — |
| 計 | 26,196 | 12,237 | 38,434 | 393 | 38,828 | △373 | 38,454 |
| セグメント利益又は損失(△) | △1,389 | 67 | △1,322 | 61 | △1,261 | — | △1,261 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸、原料油脂等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「食品事業」の売上高は2,258百万円減少、セグメント損失は1百万円減少し、「油化事業」の売上高は2,384百万円減少、セグメント利益は4百万円減少しております。

(耐用年数の変更)

会計上の見積りの変更に記載のとおり、当社は、2022年2月24日開催の取締役会において、当社が保有する本社事務所、物流倉庫、東京工場として利用の土地および借地権を譲渡することを決議いたしました。これに伴い、本社等の移転後利用見込みのない固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「食品事業」のセグメント損失は67百万円増加し、「油化事業」のセグメント利益は12百万円減少し、「その他」のセグメント利益は8百万円減少しております。